

カザフの日本人墓地

永竹庄平

予科30-9

航空8-3

(所沢市)



日本人に良く似たカザフ人

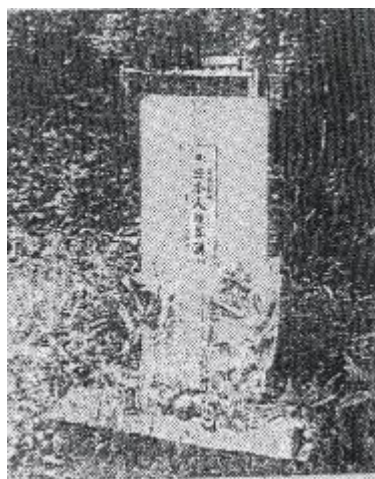
今年（平成8年）は4月から6月にかけてカザフスタンの空港のマスタープラン作りの仕事で首都のアルマティに2ヶ月余滞在した。

ところで、カザフスタンは1991年ソ連邦の解体に伴い独立し、独立国家共同体(CIS)の一員となった。人口は1680万人、トルコ系とモンゴル系のカザフ人が40%、ロシア人が38%、ドイツ人が6%、その他16%から成り、モンゴル系の血を引いた通訳のアサト君など外貌は日本人そっくりである。その国土面積は日本の約6.5倍。地図で分かる通り、東は中国の新疆ウイグル自治区、西はキャビアの採れる蝶鮫の生息するカスピ海、南はキリギスタン、ウズベキスタン等のCIS国家群、北はロシアに接している。アルマティの南方のキリギスタンとの国境付近には、夏でも雪を戴く4000m級の天山山脈の峰々が、白く美しい鋭角の稜線を描いて屹立している。



カザフスタンの周辺国

帰国を前にして、アルマティに日本人抑留者の墓があると云う話を聞いたので日本大使館に行き、書記官に墓地の所在を示す地図を書いて貰い、カザフ人の通訳のアサト君を連れて出掛けた。アルマティ市営の共同墓地は都心から車で30分、その一角に日本人墓地がある筈であったが、墓地は広大、探すのに苦労したが、何人かの墓参者に聞いて漸くその所在が分かり、用意して来た花束、酒、果物等を供えて合掌し、武運つたなく抑留の悲運に泣き、異境の地に果ててこの地に眠るご英霊に対し、慎んでそのご冥福をお祈り申し上げた。



墓標には抑留者の番号が刻まれているのみ

お墓は長方形のコンクリート枠の中にコンクリートブロックの墓標があり、氏名等

の刻印は一切なく、白色のペンキで番号が付してあるだけだった。その数約 90 基。日本人墓地と書いたが、実はこの一角は日独両国人の墓地墓標には抑留者の番号が刻まれているのみで、敷地は仲良く 2 分した形でドイツ人抑留者の墓が背中合わせに、ほぼ同数、同じ形で並んでいた。日本人墓地設立の由来を誌した碑文があり、日本語、英語、ロシア語と 3 通りの言語を用いているが、小生露語は全く駄目、日本語は明らかに日本人の手によるものではなく、言語、文章ともに読解困難、英文だけが一読してすんなり理解できた。

アルマティの北方にカラガンダと云う町があり、こゝにも日本人抑留者がいたと云う。九月中旬第 2 次調査で再度、カザフスタンに出掛けるので、機会があれば同地に赴き、戦後抑留者の足跡を尋ねたいと思っている。

抑留者の汗の結晶日本人劇場

墓参をすませて帰途についたが、途中日本人抑留者の手に成る“日本人劇場”（ナヴォイ劇場）があると聞いたのでアサト君に案内させた。広大な公園の中に在り前方に噴水を配した堂々たるビルディングである。戦後 50 年たっているのに古ぼけてもおらず、入口には公演中の“カルメン”、“蝶々夫人”のポスターが掲げてあった。抑留という不利な条件下に在り、部隊全員が建築技術者の集団ではなかった筈なのに、よくもこんな立派な劇場が出来たものかと（恐らく首都アルマティでも第一級の劇場）感じ入った次第である。



日本人抑留者が建設した劇場